



# 洋上アルプス

No.337 2023年4月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL 0997-42-0331



## 令和4年度ふるさとセミナー「forest day～森と人がつながる1日～」へ参加（2月19日）

公益財団法人 屋久島環境文化財団が主催するこのイベントは、「森と人との関わり」をテーマに共生と循環の文化を様々な団体と共創し、町民に広く普及することを目的としています。

安房の屋久島環境文化研修センターにおいて開催され、当日の参加者は約170名であり、昨年より50名ほど増えた結果となりました。

当保全センターは屋久島森林管理署と共同で、竹とんぼ作りや丸太切り体験を実施したほか、昨年度とは違い天候に恵まれたため、測樹体験や伐倒見学を行いました。また、新たなプログラムとして、松ぼっくりの炭作りを追加しました。

竹とんぼ作りでは、想定以上に多くの方にご参加いただき、午前中に午後の予約枠までもが一杯になってしまうほどでした。参加者たちは竹とんぼを作製した後、紙やすりでより飛ぶように調整していました。また、カラーペン等で名前を書いたり、好きなように色を塗ったりして、思い思いの竹とんぼを作り上げていました。

測樹体験では、バーテックスや輪尺といった木の高さや太さを測るための道具を用いて、参加者に実際に木を測ってもらいました。併せて、何故大きさを測るのか説明を行いました。

伐倒見学では、樹木の切り倒し方の説明をした後、職員が伐倒する姿を参加者の方たちに安全な場所から見学していただきました。大きな広葉樹が倒れる様子は迫力があり、倒れる瞬間は参加者の方たちも大いに盛り上がっていました。

丸太切り体験は、スギを鋸で輪切りにしてもらいました。初めて鋸を手にする参加者ばかりで、堅い丸太を切り進めるのにかなり苦勞していた様



竹とんぼ作成中



松ぼっくりの炭作り



丸太切りにチャレンジ



立木の伐倒を見学



樹高の測定体験

子でした。たくさんの方が、苦勞して切った丸太の切れ端を持って帰っていました。

松ぼっくりの炭作りは、缶に松ぼっくりを入れ、不完全燃焼させて炭を作り、希望者にお土産に持って帰ってもらいました。

他にも、環境省や屋久島町、木繋プロジェクト、主催者の屋久島環境文化財団といった参加団体から、火起こし体験やレンジャー体験、ドローン体験などたくさんの催し物が実施され、盛りだくさんな1日となりました。

## 荒川登山道定期安全点検を実施（2月22日）

屋久島山岳部保全利用協議会は、縄文杉に向かう登山者への安全対策の一環として、荒川登山道の安全点検を年2回、定期的に行っております。

2月22日(水)に、今年度2回目となる安全点検を実施し、環境省・林野庁・鹿児島県・屋久島町等関係する団体から13名が参加しました。

当日は、荒川登山口から大株歩道入口までのトロッコ道区間（7km）を歩きながら、危険箇所（14地点）及び危険箇所程では無いが要注意の箇所（6地点）を点検しました。

これまでの点検時との変化状況などを参加者全員で確認し、注意標識が外れている等不具合が見つかった箇所は修復を行いました。

今回の点検で、亀裂のある岩や枯損倒木が滑り



危険箇所を点検する参加者

落ちそうな場所等の危険箇所に大きな変化はありませんでしたが、引き続き協議会で経過観察を行うことを確認し、終了しました。

## 令和5年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画

当保全センターでは令和5年度の以下の業務を計画しています。

### 1. 森林生態系保護

- (1) 職員と森林保護員(GSS)による世界自然遺産地域等のパトロール
- (2) 屋久島世界遺産地域科学委員会等への参画
- (3) 森林生態系モニタリング調査（植生垂直分布（南部地域）、高層湿原等）
- (4) 屋久島巨樹・著名木調査
- (5) 気象モニタリング調査（雨量、気温観測等）
- (6) ヤクシカ被害対策（植生保護柵の管理、有害鳥獣捕獲等）

### 2. 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施
- (2) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への指導・助言

### 3. その他

- (1) 関係機関等との連携・協力
- (2) 学術調査研究等に係る入林手続き
- (3) 広報紙「洋上アルプス」の発行及び「年報」の発行

## 4月1日 人の動き

### 【転入】

- 生態系管理指導官  
木下 栄治(北薩森林管理署総括事務管理官)
- 主事  
塩澤 翔(熊本森林管理署)

### 【転出】

- 宮崎森林管理署 森林技術指導官  
宮本 和久(生態系管理指導官)
- 林野庁林政部 木材産業課 総務班庶務係  
森 晴可(主事)

## 「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ ⑥

### ～人と森をつなぐ～ 屋久島の森を感じる楽器づくり

ウッドショップ木心里 代表 鹿島裕司 子育て支援tetote 代表 日高ゆかり

2月28日、安房保育園の園児（年長児）を対象に「屋久島のいろいろな樹種にふれてみよう」というテーマで木工体験を開催した。

昨年の9月、ヤクスギランドで多様な生態系を学び、探索した園児と共に、森で見つけた樹種をスライドショーで振り返り、葉や実、花の形やどこで生育しているか？シカが好きな葉っぱは何？などクイズ形式で楽しみながら学んだ。

その後、檜、みやこだら、山桑、山桜、イスノキ、タブノキ、常盤柿、梅檀の7種の樹種でカスタネットを製作。布ペーパーで研磨すると香りや肌触りなど、五感で味わい、「この木は、重いなあ。この木はいいにおい」などそれぞれ、樹種の違いを楽しむ姿が見られた。

研磨したカスタネットに、米ぬかオイルで塗装をし、穴にゴムを通し、結ぶところまでチャレンジ！出来上がると、歓声があがった。早速カスタネットを叩いてみると、樹種によって音が異なることがわかり、次回の森の演奏会での演奏に更に期待が膨らむ園児であった。

その後、3月7日、屋久島環境文化研修センターで「森の演奏会」を開催。間もなく卒園を迎える安房保育園の園児が参加した。

屋久島町木育推進事業の一環で屋久島高等学校の生徒さんと製作した地杉の木琴とカスタネットでの「山の音楽家」を演奏。1回目は園児と木琴製作を行った松崎安珠さんが演奏し、2回目は関係者みんなで、大人も子どもと一緒に演奏した。「こどもの頃にかえったようで、とてもわくわくした」と参加者の中から声があがった。

カスタネットは2つの皿を合わせて音が出る。カスタネットのように、小学校へ行っても友だちとたくさん遊んで、楽しい時間を過ごしてほしい。とエールを送った。

「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」をテーマに森林・林業に携わる関係者の皆様の協力の元、園児の皆さんと一緒に楽しく学ぶことが出来たことを心より感謝しています。これからも、継続して屋久島町の魅力

をこどもたちや町民の皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。掲載にあたり、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



木工体験「屋久島産材でカスタネットを製作」



赤ちゃんが舐めてもいいように米ぬかオイルでコーティング



地杉の木琴（松崎安珠さん）

演奏する園児たち



卒園を迎える園児にエール

園児からの御礼の手紙



屋久島の木がだいすきになった園児たち



## 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

### 【目的】

垂直方向の植生モニタリング調査は、平成11年度から屋久島を5つの地域に分け、それぞれ5年ごとに継続して実施し、過去の植生等の変化を見るとともに今後の動態の予測を行い評価するものである。令和3年度の植生垂直分布調査は、屋久島東部(図1)を対象とし、平成13年度に設定し平成23年度に拡張したプロットおよび標高1235m地点（愛子岳山頂）において、前回（平成28年度）の調査から5年経過後の五巡目となる調査を行った。

### 【調査項目】

●プロットの設定箇所の位置・地形等概況把握 ●毎木調査・下層植生調査、階層構造調査 ●周辺の出現植生及び群落配分図、群落縦断図の作成 ●ヤクシカによる植生への被害状況調査 ●過年度との比較・考察 ●種別標高別の出現植生リスト作成 ●衰退樹木調査

### 【調査地点】

標高200m地点から標高1200m地点（愛子岳山頂直下）までおよそ標高200m毎に設定されている既設のモニタリングプロットおよび標高1235m地点（愛子岳山頂）において植生垂直分布等の調査を実施した。（図2）



図1 令和3年度調査地点

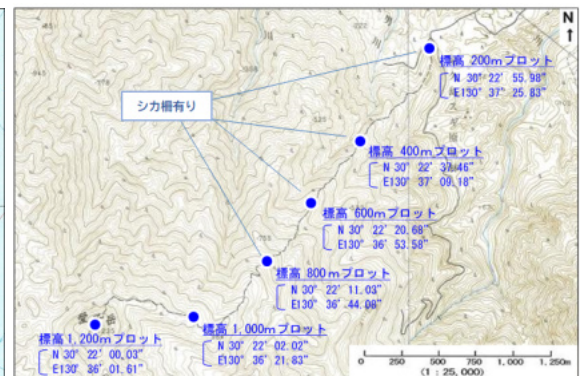


図2 植生垂直分布調査地点位置図

## グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～

### コショウノキ



コショウノキは3月13日、ヤクスギランドでのパトロール中に見かけました。

名前は、果実（有毒）が胡椒のように非常に辛いことに由来しているようです。花の香りはジンチョウゲに似ていて、静かな森の中で更に落ち着いた気持ちにさせてくれます。

### ヒサカキ



ヒサカキは3月28日、カンカケ岳近くで植生保護柵の補修の際に見かけました。

名前の由来は、サカキの小型（姫榊）のものや低いサカキ（低榊）など諸説あるようです。花の香りは強い臭気（個人的な感想です）を感じますが、ハマヒサカキほどではありません。